

平成24年度

(2012年度)

# 町田市の財政

- 普通会計決算状況
- 財政の健全化

平成25年12月

町田市財務部財政課



## はじめに

地方公共団体の会計は、家計と同じように収入（歳入）と支出（歳出）で構成されており、町田市では一般会計（行政の一般的な歳入、歳出を経理する会計）以外に6つの特別会計（一つの目的を持った事業の収支を一般会計とは切り離し、単独で経理する会計）を設けて経理を行っています。

この一般会計や特別会計は、地方公共団体によって会計の設定や内容が異なるため、自治体間の比較が困難です。そこで、総務省の定めた全国統一の基準をもって各会計を再構成し、自治体間の比較分析するための会計区分を「普通会計」「公営事業会計」と呼んでいます（町田市の普通会計と公営事業会計の構成は1ページをご覧ください）。

町田市の平成24年度普通会計決算額は、市庁舎建設事業の終了により歳入・歳出総額は前年度を下回りました。

しかし歳入を見ると、市税は個人・法人市民税の回復は見られるものの、土地・家屋の評価替えに伴う固定資産税の減収によって、前年度に比べ6千万円の減収となり、平成20年度から5年連続で対前年度比減となりました。

その一方で歳出は、障害者自立支援給付費や児童保育運営費の増加等により社会保障関係経費（扶助費）が5億7千万円増加したことや、予防接種事業における生ポリオワクチンから不活化ポリオワクチンへの移行による委託料の増加や鶴川緑の交流館開館による維持管理経費の増加等により物件費が1億9千万円増加しています。

これらの影響などにより経常収支比率は前年度から1.0ポイント上昇し、市政施行以降初めて90%を超えるなど（90.5%）、財政構造の弾力性を失いつつあります。

今後も少子高齢化による生産年齢人口の減少や医療・介護給付の増加等によって、市税収入の減少や社会保障関係経費の増加は避けられない状況であり、今後さらに厳しい財政運営を強いられるものと予想されます。

本書では、まず平成24年度の決算状況について、普通会計の数値を用いて経年比較や対前年度比較、他市との比較を行うことにより、町田市の財政の現状をお知らせしています。

また、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づく、健全化判断比率の4指標、及び公営企業ごとの資金不足比率の算定結果等により、市全体の財政の健全性を示しています。

今後も市財政の状況について、よりわかりやすい情報の提供に努めるとともに、分析結果を活用しながら、持続可能な財政運営を目指していきます。

# 平成24年度 町田市の財政

## 目 次

I. 普通会計決算状況	1
1. 平成24年度普通会計決算の概要	1
(1) 収支の状況	1
2. 歳入	2
(1) 平成24年度歳入の状況	2
3. 歳出	6
(1) 目的別分類による歳出の状況	6
(2) 性質別分類による歳出の状況	13
4. 積立金・市債	22
(1) 積立金と市債現在高の推移	22
5. 財政指標	24
(1) 各財政指標の推移	24
II. 財政の健全化	30
1. 健全化判断比率	32
(1) 実質赤字比率	32
(2) 連結実質赤字比率	33
(3) 実質公債費比率	34
(4) 将来負担比率	35
2. 資金不足比率	36

## 付属資料

1. 決算カード（普通会計）	38
(1) 平成24年度決算状況	38
(2) 平成23年度決算状況	40
2. 多摩26市の中の町田市（財政指標比較）	42
3. 多摩26市の中の町田市（市民一人当たり普通会計決算額比較）	43

※従来掲載していた「町田市の財務諸表4表について」は、従来の内容をよりわかりやすく説明するために「町田市の新公会計制度による平成24年度決算報告書」として独立した刊行物としました。  
連結財務諸表の内訳も含めて町田市ホームページに掲載していますのでそちらをご覧ください。

町田市 新公会計制度

検索

### 【注意事項】

文中及び図表中の数値については、原則として各項目ごとに表示単位未満を四捨五入しているため、合計と内訳の計、差引き等が一致しない場合があります。